

山鹿市民医療センターが 担う役割について

令和5年2月28日
山鹿市民医療センター

1 現状と課題

○当センターの目指す姿

山鹿市民医療センターは、鹿本医療圏唯一の急性期の自治体病院であり、地域災害拠点病院、救急告示病院、熊本県がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、臨床研修指定病院等としての役割を果たしていきます。

また、今後の著しい人口減少、少子高齢化を見据え「がん診療」・「高齢者医療」・「予防医療」を3つの柱として、地域医療を充実させ、市民に親しまれ地域に開かれた信頼される病院を目指します。

○基本理念

「地域住民の生命と健康への貢献」

1 現状と課題

○基本方針

- (1) 患者さま中心の信頼される医療を行います。
 - ・ 患者さまの目線に立ち、患者さまの価値観を尊重する医療の提供
 - ・ 医療安全対策等の充実による安心・安全な医療の提供
- (2) 診療機能の充実に努め、質の高い医療を提供します。
 - ・ クリティカルパスの活用やチーム医療の推進等による質の高い医療の提供
- (3) 地域の保健、医療、福祉の連携を推進します。
 - ・ 地域医療機関との連携強化
 - ・ 地域包括ケアシステムの実現に向けて保健、医療、福祉の連携の推進
- (4) 研修、研鑽に努め、医療レベルの向上を図ります。
 - ・ 地域医療機関も含めた医療従事者研修等の充実
- (5) 健全経営に努めます。
 - ・ 安定した病院経営、経営基盤の確立による健全経営

1 現状と課題

【基本情報】

○病床数

一般病床 197床、感染症病床4床 計201床

(内訳 急性期一般入院基本料1：144床、HCU：6床、地域包括ケア：38床、緩和ケア：13床)

○標榜診療科

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、代謝内科、外科、消化器外科、
乳腺外科、産婦人科、整形外科、リハビリテーション科、放射線科、小児科、
泌尿器科、麻酔科、耳鼻咽喉科、眼科、腫瘍外科、緩和ケア内科、腫瘍内科

計 20診療科 他に総合診療科、特殊専門外来

○医療機関指定

- ・ 地域医療支援病院・災害拠点病院・救急告示病院
- ・ 熊本県指定がん診療連携拠点病院・第二種感染症指定医療機関
- ・ 熊本DMA T指定病院・臨床研修指定病院〔協力型〕
- ・ 日本医療機能評価機構認定病院
- ・ 病院群輪番制病院救急病院認定
- ・ 熊本県肝疾患専門医療機関 ・ 熊本県肝炎治療指定医療機関

1 現状と課題

【基本情報】

○主な診療実績（令和3年度実績）

- ・年間延べ入院患者数 : 44,264人（1日平均：121.3人）
（うち感染症病床 : 1,750人（1日平均：4.8人））
- ・年間延べ外来患者数 : 49,403人（1日平均：204.1人）

- ・病床稼働率 : 60.3%
- ・平均在院日数 : 17.7日
- ・救急患者数 : 4,246人（うち救急搬送受入れ人数：1,101人）
- ・手術件数 : 998件
- ・人間ドック件数 : 1,900件
- ・その他健診件数 : 2,035件

1 現状と課題

職員数

令和4年4月1日現在

職 種		常勤	非常勤	計	職 種		常勤	非常勤	計
医師		21	26	47	看護部門	看護師	138	24	162
医療技術員	薬剤師	7		7		准看護師	12	6	18
	検査技師	10		10		助産師	5		5
	放射線技師	6		6		看護補助者		21	21
	理学／作業療法士	11		11	事務	社会福祉士	5		5
	栄養士	4		4		診療情報管理士	1		1
	臨床工学技士	2		2		事務	15		15
	視能訓練士	1		1		その他		23	23
					合 計	238	100	338	

1 現状と課題

山鹿市民医療センターが担う政策医療（5疾病5事業）

5疾病のうち、主に3疾病（がん、急性心筋梗塞、糖尿病）を担っています。

がん	熊本県指定がん診療連携拠点病院として、がんの診断と治療、更に緩和ケアに至るまで質の高い、谷間のない医療提供に努めています。特に、消化器がんは腹腔鏡手術、進行がんの集学的治療等、高度な診療を行っています。 今後は泌尿器がん手術、血液がんなど診療対象の拡大、スタッフの充実が課題です。
脳卒中	専門医不在ですが、救急患者の搬入を受け入れています。 今後は、地域での24時間対応体制の整備と緊急的措置（外科的手術や血管内治療）の導入が課題です。 （熊本市内の三次救急医療機関と連携）
急性心筋梗塞	常勤医2名と熊大非常勤医師1名での診療を行っています。 今後は、当院での24時間心カテ等緊急対応体制の整備が課題です。
糖尿病	担当医を中心に、糖尿病対策チームが積極的に診療に取り組んでいます。 今後は、周囲医療機関との連携パスの運用が課題です。
精神疾患	—

1 現状と課題

◇ 5 事業

5事業のうち4事業を担っています。

救急医療	<ul style="list-style-type: none">・救急告示病院として2次救急医療機関の役割を担っています。・夜間休日においては、当直医と併せて内科、外科、整形外科のオンコール体制を採っており救急患者を積極的に受け入れています。(救急車受入れ年間1,000台超に増加)・職員対象に、ICLS、BLS研修を行い、救急対応の充実に努めています。・脳卒中、急性心筋梗塞等については、熊本市内の三次救急医療機関と連携しています。・救急患者の受入体制(対象疾患)の拡充と、時間外手術の検討が課題です。
災害医療	<ul style="list-style-type: none">・地域災害拠点病院として院内の整備、関係機関との連携や研修に努めています。・DMAT 2チームを保有し、定期的な訓練参加や研修受講を行っています。・今後は、BCPに基づく定期的な訓練の実施、医師会・行政と連携した訓練、研修実施が課題です。
へき地医療	—
周産期医療	<ul style="list-style-type: none">・非常勤医師による平日の外来診療を継続しています。・常勤医の確保や分娩体制の構築が課題です。
小児医療	<ul style="list-style-type: none">・非常勤医2名体制により、平日時間内の外来診療には対応していますが、入院診療ができない状況です。・常勤医確保の予定があり、時間外診療及び入院診療の体制構築が課題です。

1 現状と課題

◇その他事業

在宅医療	<ul style="list-style-type: none">・訪問看護事業による在宅緩和ケア患者の療養生活支援を行っています。・訪問診療体制構築による、がん患者の急性期から在宅までの谷間のない医療サービス提供に努めています。
------	---

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

□ 今後の方針

・山鹿市民医療センターは、引き続き救急告示病院、地域災害拠点病院、熊本県指定がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院等地域の中核病院としての役割を努めていきます。

「がん診療」「高齢者医療」「予防医療」を柱とし、地域医療の充実に努めます。

- 救急医療：救急車の積極的受入、圏外への患者流出の抑制
- 急性期医療：緊急手術の実施、クリティカルパスによる平均在院日数の管理
- 災害医療：職員の教育、医師会・行政との連携
- 小児・周産期医療：小児科、産婦人科における常勤医の確保
- がん診療：手術、化学療法、緩和ケア等切れ目のない医療の提供、市民公開講座等での地域住民への啓発
- 高齢者医療：急性期病院として、かかりつけ医との連携
- 予防医療：健診・人間ドックの充実

◎地域医療支援病院としての役割

- ・地域の医療機関、保健、福祉、介護施設との連携、関係強化による地域完結型医療のさらなる推進
- ・地域の医療従事者に対する研修実施による地域医療の質向上

2 今後の方針

【地域医療支援病院としての新たな責務について】

○医師の少ない地域を支援すること

- ・ 紹介、逆紹介の推進、医療機器の共同利用、開放型病床の運用等従来から地域の医療機関との連携が図られています。
- ・ 当センターは熊本県地域医療拠点病院に指定されており、地域へ医師派遣が指定要件となっています。医師会等と協議し、必要な医師派遣を行っていきます。

○近接している医療機関と競合している場合は、地域医療構想調整会議における協議に基づき、医療需要に応じ、必要な医療に重点化した医療を提供すること

- ・ 急性期医療、救急医療についての役割分担が図られています。
- ・ 県北唯一の緩和ケア病棟を有しており、鹿本圏内において質の高いがん診療を提供しています。

2 今後の方針

【地域医療支援病院としての新たな責務について】

○平常時からの準備も含め、新興感染症等がまん延し、又はそのおそれがある状況において感染症医療の提供を行うこと

- ・ 新型コロナウイルス感染症流行初期においては、第二種感染症指定医療機関として、帰国者・接触者外来、陽性患者の入院診療、トリアージ外来等を実施しました。新型コロナ病床として10床を確保しました。
- ・ 新規感染者数の増加や医療機関及び高齢者施設のクラスターへの対応を経験する中で、鹿本医師会、山鹿保健所と連携し機能分化、役割分担が進みました。その結果、疑似症患者の入院加療、陽性患者の入院トリアージ・中等症を中心とした入院診療に専念することができ、大変感謝しています。改めて地域内の連携、協力体制の構築の重要性を認識したところです。また、役割分担が、医療従事者の負担軽減にも繋がっています。
- ・ 今後の新興感染症への対応については、日頃からの地域内での連携、情報共有、医師会及び行政との協力による患者受入れ訓練の実施等が重要であると考えます。
併せて医療従事者の基本的な感染対策の徹底にも努めていきます。

2 今後の方針

【地域医療支援病院としての新たな責務について】

○平常時からの準備も含め、災害時に医療を提供すること

- ・ 当センターは、従来から地域災害拠点病院として、災害医療の提供に努めています。平成28年の熊本地震においては、被災地へのDMAT派遣、他医療圏からの入院患者受け入れを行いました。
- ・ 定期的な訓練実施、研修参加等により災害拠点病院としての機能維持に努めていきます。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期	6	6	6
急性期	140	140	140
回復期(地域包括ケア)	38	38	38
慢性期(緩和ケア)	13	13	13
その他	0	0	0
合計	197	197	197

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 ① 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

地域の中核病院、急性期病院としての役割を果たすため、現状の病床機能を維持します。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 (2023年1月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、代謝内科、外科、消化器外科、乳腺外科、産婦人科、整形外科、リハビリテーション科、放射線科、小児科、泌尿器科、麻酔科、耳鼻咽喉科、眼科、腫瘍外科、緩和ケア内科、腫瘍内科 全20診療科	現状維持	地域の中核的病院としての役割を果たすため必要
新設	—	—	—
廃止	—	—	—
変更・統合	—	—	—

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(2022年3月時点)	2025年
①病床稼働率	60.3%	75.0%以上
②紹介率	53.5% ※コロナ患者を含む 60.8% ※コロナ患者を含まない	50.0%以上
③逆紹介率	66.8% ※コロナ患者を含む 71.6% ※コロナ患者を含まない	70.0%以上

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組】

○地域医療連携の強化

- ・ 紹介、逆紹介の推進による地域の医療機能の分化
- ・ 地域医療連携室の組織強化による円滑な入退院支援及び転院調整
- ・ くまもとメディカルネットワークの活用

○医師等医療従事者の確保

- ・ 熊大病院への継続的な派遣依頼
- ・ 熊本県ドクターバンク登録、民間紹介業者の利用
- ・ 山鹿市医師修学資金制度の活用等幅広い医師確保
- ・ 実習生の積極的な受入れ
- ・ 学校訪問、地元学校との関係強化による看護師の確保

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組】

- 医師の働き方改革等に伴うタスクシフト/シェア推進
 - ・ 医師事務作業補助者の増員による医師の事務作業負担軽減
 - ・ コメディカルの増員によるタスクシフト
 - ・ 特定行為看護師の養成（R4年度 1名、R5年度 2名研修修了予定）

- 教育、研修体制の充実
 - ・ 臨床研修医、医学実習生の積極的な受入れ（地域医療の経験）
 - ・ 認定看護師、特定行為看護師等研修への支援

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【課題】

- 特定の診療科の常勤医不足による診療制限
 - ・呼吸器内科⇒今般のコロナ禍により、一層重要性が高まった
 - ・泌尿器科 ⇒手術が実施できないため、他の医療圏へ患者が流出
 - ・産婦人科 ⇒現在鹿本圏域内に分娩施設がない

- 看護師、看護補助者の慢性的な不足